

(前唄)

何より 大事な宝物 それは 家族と知りました

釜石あの日あの時甚句 (願い事)

あの日 あの時
甚句に 詠めばよ

家も ^{いえ}職場も 流されて
携帯 電話も 繋がらず
不安と 恐怖が 渦を巻き^{うず}
気持ち ばかりが 空回り

生きて
生きてて
生きててと
歩き続けた がれき道

がれきの山とは 言うけれど
あの日 は がれきの谷の底
見上げる 線路に よじ登り
枕木 踏みしめ 歩き出す

夕暮れせまる トンネルを
壁を 頼りに 手探りで

一歩 一歩の 足探り
^{あかり}出口の 見えない その先で

たった ひとつの 願い事

家族の 笑顔に 会えたなら
必ず 明日も 生きるから
だから お願い 生きていて

平成二十五年五月十一日 北村弘子作
唐丹へ家族を探しに行った方々の言葉より

平成二十七年二月十一日 藤原マチ子補作